

今月の言葉

私たちは言葉とともに生きています。時に傷つき、迷いながら、出あった言葉によって気づきを得、その言葉によって人生を生ききっていく。誰しもそんな出あいがあるのではないのでしょうか。

言葉で傷つき
言葉で目覚め
言葉で生ききる

INFORMATION

2023 **こどものつどい** in 徳泉寺

8月8日(火) 6:30～11:00

6:30 受付

6:45 全集中ラジオ体操

6:50 おつとめ おはなし

7:30 朝ごはん おにぎり&みそ汁

具材バイキング

8:30 そうじ

9:00 自主学习

9:45 スイカわり

10:30 おわりのかい

申し込みフォーム



今年のテーマは「早起き朝ごはん！」早起きして身体を動かして、みんなで炊きたてのごはんでおにぎりを作って食べたらおいしいに違いない！詳細はお問い合わせください。

住職法話「手のひらを太陽に」

私にはわからないことがある。これは陸前高田のお寺の坊主さんの言葉です。だから、「聞く」。わかった、と思わずに相手のことはわからないことがある、と思いつながら聞くことが大切だと教えてもらいました。私たちは、相手のことだけでなく、実は自分のこともよくわからないでいます。気づいたら食欲がなかったり病気になるっていたり。身体が先に動けなくなる、ということもあります。自分の声にさえ耳を傾けるのは難しいのです。

「手のひらを太陽に」の歌は生きる実感を謳った歌です。太陽に手のひらを掲げてみたら私が生きているということがわかった。この、太陽に手をかざすように、私の声は人の輪に入って初めて聞けるということがあります。私の声を聞く相手とのつながりを通して、初めて私に出あっているのではないのでしょうか。

前住職法話「いただきます」

新聞にタイのバンコクで恥ずかしい思いをした、との投稿がありました。レストランで現地の友人と食事をした時のこと。運ばれてきた料理にすぐ手を付けた彼にタイ人の友人は「君は本当に日本人か」とあきれたのです。聞けばそのレストランのランチョンマットには「日本では食事の前には「いただきます」と手を合わせる。それは「私の命のために動植物の命をいただきます」という意味だ」と書いてあるのだとか。

真宗にも食前の言葉があります。「御光のもと 我今さいわいに この清き食を 受く いただきます」。命をいただくためのこの食前の言葉には二つの意味が込められていると思います。一つには謙虚さ。いろんなおかげさまで生かされていただいているという身の事実です。そしてもうひとつは責任感。あなたの命をいただいているこの身とし、合体した分の命まで生きるという宣言です。

八月の同朋会はお休みです おみがき（仏具を磨きます）

八月一日（火）九時半から

お弁当を用意します。同朋会員以外の参加希望者はご連絡ください。

七月公開同朋会より

ぼうもりのひとりごと
このひと月の間に住職、坊主が順番に流行りの疫病に罹患しました。普通に息ができる(=生きる)こと、自分の身体を地球に対して垂直に保つこと、の難しさを実感するとともに、支えがあることへの感謝をしみじみと感じました。